

国士館の“いま”、 そして“これから”

瀬野 隆
学校法人国士館
理事長

田原 淳子
学長
国士館大学

**良き伝統を大切に守りながら、
時代の変化に対応した学びの環境づくりを。**

田原 国士館では、創立以来100年以上にわたり、自分を活かし、多様な人々を活かしながら、国内外で活躍する“活人”を育成しています。警察や消防など、“人を支える職業”に多くの卒業生を輩出しているのが、その証です。

瀬野 その核にあるのが、「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材の養成」という国士館建学の精神です。学生一人一人の“人そのもの”を育てていくことに、すべての教員、職員が真剣に取り組んでいるのが、国士館らしさであると感じています。

「AI・データサイエンス教育プログラム」と「防災教育」

田原 こうした良き伝統を守りながら、社会の変化を敏感に柔軟にキャッチして学びの環境を整えているのも本学の特色といえます。「AI・データサイエンス教育プログラム」と「防災教育」に力を入れており、副専攻として学部を問わず学ぶことができます。



瀬野 「AI・データサイエンス教育プログラム」については、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベルと応用基礎レベル）」に認定されており、先進のプログラムを本学で学ぶことができます。



田原 「防災教育」については、全学生対象の「防災総合基礎教育」をはじめ、講義と演習で学ぶ防災リーダー養成カリキュラムを開設しています。「防災士」の養成にも力を入れており、これまでに資格を取得した学生は1,500人を超えていました。また、防災分野をはじめ社会実装が進むドローン操縦の国家資格取得講習も実施しており、社会で活躍する最新の知識や技術を身に付けることができるので、ぜひチャレンジしてほしいです。

瀬野 防災士に関しては、将来的には約半数の学生が資格を取得することを目指しています。また、多くの学生が災害ボランティアに参加し、災害時の実情を理解しており、社会に出た際に非常に役立つと考えています。

田原 小学校教員となった卒業生が、本学の防災教育を活かして、全校児童の前で実演指導しているという話を聞きました。また、防災士の資格は、民間企業でも、災害時に資格や知識を発揮できるので、積極的に受講していただきたいです。

グローバルな舞台で活躍する“地球市民”を育成

田原 グローバル化が進む社会において、世界的な課題を見つめ、考え、行動する力を養う、“地球市民”的な育成にも力を注いでいます。さまざまな留学制度を充実させるほか、海外協定5大学とともに、「アカデミックコンソーシアム」を定期開催し、学生たちの国際交流の場を広げています。

瀬野 国士館大学は現在、24カ国・1地域で53大学3研究機関と学術交流協定を締結しています。世界とつながり、国や文化の違いを認め合う視野の広さを身に付けながら、グローバルな舞台で活躍する機会にあふれています。

学系・コース再編とカリキュラム改革

田原 時代のニーズに合った大学であり続けるために、2026年度から4学部（理工、法、文、21世紀アジア）で学系・コースの再編やカリキュラムの改革を実施します。たとえば、文学部では、初等教育課程と中等教育課程に分かれていたコースを1コースに統合し、新たな教育学科としてスタートします。これにより、教育学科の全学生が幼稚園、小学校、中学校（社会科・保健体育科）、高等学校（地理歴史科、公民科、保健体育科）、特別支援学校、養護教諭の各一種免許状といった幅広い選択肢の中から自分の興味や進路選択に合わせて免許状の取得を目指せるようになります。また、21世紀アジア学部では、2025年度から日本サッカー協会公認C級ライセンスの指導者資格取得のため

夢を叶える
大学であり続けるために

集中講義も開講し、国内はもちろん、アジアをはじめとする海外で指導者として活躍できる道を開いていきます。

瀬野 これらの資格に加えて、税理士や公認会計士など、卒業生が社会で活躍する機会をどんどん増やすために、大学院も含めたカリキュラムの改革を進めています。

田原 カリキュラム改革には、学部の垣根を低くするというねらいがあります。実社会の課題解決のためには、さまざまな分野の知識や技術を融合する必要性に直面します。自分の専門分野に他分野の学びを掛け合わせることで、自由な領域の学びを探求できるのではないかでしょうか。7学部10研究科、研究所を有する総合大学・国士館の強みを活かして、社会で活躍するための“総合知”を身に付けられる環境をどんどん整えていきます。

次世代を担う、新たな国士館へ。キャンパス環境整備事業、進行中

瀬野 国士館では現在、世田谷キャンパス校舎の建て替えを中心とした環境整備事業が進行しています。急激に進む情報化社会の中で、次世代をリードする知の拠点を創出するという思いのもと、ICTを活用したデジタル技術を取り入れ、“どこでも学べ、議論ができる、休息できる”学生の自由な居場所を積極的に創出します。



田原 教室の机や椅子を可動式にして自由なレイアウトができるようにするなど、アクティブラーニングを想定した教室環境を構築しています。教室だけではなく、友だちとおしゃべりを楽しんだり、食事をとったり、PCで自習をするなど、自由に使える場所を随所につくることで、コミュニケーションが豊かになり、そこから新しいアイデアが生まれていく。“余白”がたくさんあるキャンパスを目指しています。

瀬野 いかに広く、区切らずに、快適な空間をつくるか。授業が終わっても、キャンパスでずっと過ごしたくなる、居心地の良さを追求しています。

田原 スポーツの機会がもっと身近になる施設や、健康的な食事の提供など、あらゆる面で学生ファーストを実現するキャンパスで大学生活を楽しんでほしいと思います。

瀬野 地域との連携を強化し、災害時には防災拠点にもなる。既成概念に捉われない、まったく新しい大学の姿を国士館が実現していきます。

安心安全なキャンパスづくり

田原 学生が快適に過ごす基盤となるのは、安心安全なキャンパスづくりです。アスリートも多くいる大学ですので、けがへのケア、心理面でのサポート、さらには、女性アスリートへの専門的な支援など、誰もが安心して学生生活を過ごせるキャンパスづくりを進めています。

瀬野 田原学長は、国士館では初めての女性学長です。女子学生へのさまざまなケアが行き届いた環境は、すべての学生にとって過ごしやすい環境になります。女性視点からのキャンパスの改善に、非常に期待しています。



学生へのメッセージ

“好き”を見つけ、自分の可能性を磨く4年間に

田原 国士館は、教員と学生の距離が近く、“面倒見の良い大学”だと自負しています。本学で、好きなことを見つけ、自由にとことん探究し、自分の可能性を磨きながら、仲間や先輩・後輩、教職員との関係を生涯の財産としてください。国士館がワンチームで皆さんの成長を全力でサポートします。

瀬野 国士館は、“夢を叶える大学”です。学生一人一人の夢を現実のものとするために、ハード、ソフト両面から大学の改革を進めています。国内のみならず、海外で活躍する力を磨く機会にもあふれています。ぜひ、国士館で大きな夢を叶えてください。



さあ 就活に向けて準備開始！

面接体験「話す・聞く」大切に

本学キャリア形成支援センター主催の面接体験セミナーが昨年12月6・7日、世田谷キャンパス8号館各教室で実施され、学部3年生60人が参加した。11月29日の事前講座を含む3日間のプログラムで、学生らは各班に分かれグループディスカッションや集団面接、個人面接の練習に励んだ。

講師を担当するのは企業の採用担当者。直接的に意識するポイントや入退室の所作、着席時の姿勢など基礎的な指導の後、本番ながら実践練習が行われた。講師は「努力の過程に着目して話すと良い」「あいさつで第一印象が決まる」「相ちやうやアイコンタクトなどが周囲とのコミュニケーションを意識して」と、採用側から見た印象を含めて具体的に助言した。

学生からは、自分の長所や課題を明確化することができた。「他学生の面接の様子を見ることで、客観的に比較できる良い機会になった」と話し、就職活動意欲をのぞかせた。

グループディスカッション練習で聴く姿勢にも意識を向ける学生ら



大学3年生倒し選考などについて丁寧に質問に答える教員採用試験合格者



教員合格への道のりに興味津々

報告会が昨年12月9日、世田谷キャンパス34号館B304教室で開催され、教員を目指す学生や教職員など約50人が参加した。今年度の教員採用試験に合格した政経・理工・文学部の4年生5人が登壇し、自身の合格までの道のりを報告した。

発表者はそれぞれ、自治体ごとの試験の特徴や自分なりの勉強法、使用した参考書などについて具体的に紹介した。その中でも共通して強調されたのは、「早い段階での徹底的な準備と計画の重要性」だ。

質問に答えば、受験自治体を選んだ理由や令和5年から開始された「大学3年生倒し選考」について話が及び、参考者は興味深く耳を傾けた。発表者は、児童・生徒に寄り添う教員を目指したい「これからがスタート」と、一步歩努力を続けていかたい」と、教員への意気込みを語った。

質問に答えば、受験自治体を選んだ理由や令和5年から開始された「大学3年生倒し選考」について話が及び、参考者は興味深く耳を傾けた。発表者は、児童・生徒に寄り添う教員を目指したい「これからがスタート」と、一步歩努力を続けていかたい」と、教員への意気込みを語った。

警察官／国家公務員採用担当者や法学部卒業生から特色聞く

同26日には、主に国家公務員を目指す学生向けのガイダンスが行われた。人事院の採用担当者と、法務省、内閣府から職員4人が登壇し、試験の概要や業務内容、キャリアパスについて説明した。

宮内庁式部職儀第3係の村田大空氏（令和6年法学部卒）は、宮内庁を志望するきっかけとなつたエピソードなどを学生時代の思い出とともに語った。さらに、自らの職務について、国内の中枢を担う仕事」とし、「歴史的な儀式や重要な事務の準備と運営において感じている」と、学生らに仕事の魅力を伝えた。

宮内庁式部職儀第3係の村田大空氏（令和6年法学部卒）は、宮内庁を志望するきっかけとなつたエピソードなどを学生時代の思い出とともに語った。さらに、自らの職務について、国内の中枢を担う仕事」とし、「歴史的な儀式や重要な事務の準備と運営において感じている」と、学生らに仕事の魅力を伝えた。

本大会は、日本スポーツ振興会主催の学生によるコンペ（いずれも3年）の4人（小田急線新百合ヶ丘駅の再開発計画を基に、歩行を促すまちのデザインや「ゆるハーフ」の実験）を実施を通じて多世代の交流を推進することを駅周辺に掲げた。

波多野ゼミが見事受賞（ソシテ政策学生会議 FORUM8デジタル賞）

ゼミは昨年10月25・26日に立教大学池袋キャンパスで開催された「スポーツデジタル賞」を受賞した。ゼミの船田莉帆さん、ウズンさん、栗原健太さん、諏訪駿駿さん、波多野ゼミの船田莉帆さんは、小田急線新百合ヶ丘駅の再開発計画を基に、歩行を促すまちのデザインや「ゆるハーフ」の実験）を実施を通じて多世代の交流を推進することを駅周辺に掲げた。

本大会は、日本スポーツ振興会主催の学生によるコンペ（いずれも3年）の4人（小田急線新百合ヶ丘駅の再開発計画を基に、歩行を促すまちのデザインや「ゆるハーフ」の実験）を実施を通じて多世代の交流を推進することを駅周辺に掲げた。

波多野ゼミが見事受賞（ソシテ政策学生会議 FORUM8デジタル賞）

ゼミは昨年10月25・26日に立教大学池袋キャンパスで開催された「スポーツデジタル賞」を受賞した。ゼミの船田莉帆さんは、小田急線新百合ヶ丘駅の再開発計画を基に、歩行を促すまちのデザインや「ゆるハーフ」の実験）を実施を通じて多世代の交流を推進することを駅周辺に掲げた。

阿部さん最優秀演題賞に輝く

停車に対するバイ

スタンダードによる

本研究は、救急率の向上に著しく寄与すること

肺蘇生の種別と予後の関連。自然水域で発生した溺水心停止に対しバイスタンダードが行う心肺蘇生は、最も良好な方法類に分け、それが1ヶ月生存などの貴重な時間となった。

警察学校での生活、採用試験の概要、地域ごとの特色などを詳しく述べた。後半の個別相談会では、現職の本学卒業生も加わり学生の疑問に答えて、不安を解消する採用担当者が来校し、職務内容を説明した。

法務部では、公務員を目指す学生を対象に、各種説明会を開催している。昨年11月12日に開かれた警察官採用担当者のによる説明会に参加した。今年度の教員採用試験に合格した政経・理工・文学部の4年生5人が登壇し、自身の合格までの道のりを報告した。

発表者はそれぞれ、自治体ごとの試験の特徴や自分なりの勉強法、使用した参考書などについて具体的に紹介した。その中でも共通して強調されたのは、「早い段階での徹底的な準備と計画の重要性」だ。

質問に答えば、受験自治体を選んだ理由や令和5年から開始された「大学3年生倒し選考」について話が及び、参考者は興味深く耳を傾けた。発表者は、児童・生徒に寄り添う教員を目指したい「これからがスタート」と、一步歩努力を続けていかたい」と、教員への意気込みを語った。

質問に答えば、受験自治体を選んだ理由や令和5年から開始された「大学3年

